

貴重な自然を壊す無駄な設楽ダム建設 いったん立ち止まって見直すべき 本村議員 衆院国交委

本村伸子衆院議員は20日、国土交通委員会、愛知県設楽(したら)町の設楽ダム建設について質問しました。

ネコギギの移植は成功していない

本村氏は愛知県内の一級河川の上流に唯一ダムがない地域で、貴重な自然環境が残っていると述べ、環境省と愛知県のレッドデータブックに絶滅危惧ⅠのB類と記載されているネコギギ(ナマズの種類)の生息への影響についてただしました。これに対し、環境省の小林総合環境政策局長は、調査範囲内でネコギギの生



息が確認された淵は53カ所、このうち18カ所がダム建設のために改変されるため、事業者が移植実験を行っている」と答えました。

国土交通省の池内水管理・国土保全局長は、ネコギギの移植実験について、2008年度と2014年度の業務が終了しているものの総額は約8.7億円と答えました。

本村氏は移植実験の結果、07年は100匹放流し、319日後に0匹、08年は20匹放流し、269日後に3匹を確認したが、その後は調査せず、09年は40匹放流し、190日後に0匹、2013年は37匹放流し、555日後に4匹を確認したが、その後は調査していないと指摘し、「(移植実験が)成功しているとは言えない」と批判。ネコギギが守られる保障がない中で、現地では工事用道路などほとんどすすめているが、いったん立ち止まっ

て、見直すべきと述べました。多すぎる「流水の正常な機能の維持」
また、本村氏は、ダム建設の目的について、有効貯水容量9200万立方メートルのうち、「流水の正常な機能の維持」のために600万立方メートル、65%を占めていると指摘し、こんなに多いのは異常だと批判しました。
太田昭宏国交大臣は、「事業を着実にすすめることが地元の声にこたえることだ」と述べ、ダム建設を続ける態度をとりました。

◆ 本村議員の話 引き続き、ネコギギやクマタカ、アサリのわく三河湾の環境問題、「流水の正常な機能の維持」問題、利水問題、治水問題、地盤問題などなど指摘し、設楽ダムを中止に追い込むために全力を尽くします。

設楽ダム調査、住民らと懇談、予定地視察 — 本村議員、愛知県議ら

本村伸子衆院議員と愛知県のわしの恵子、しもおく奈歩両県議、田中邦利設楽(したら)町議らは17、18日、愛知県の設楽ダム建設の調査に入り、住民や「設楽ダムの建設中止を求める会」の人たちと懇談、建設予定地を視察しました。



設楽ダムは愛知県の豊川水系の寒狭川(かさかわ)に計画される巨大ダムで、40年以上前に計画され、民主党政権時

代に見直しの対象になりましたが再び、建設されることになったダムで、現在、取り付け道路工事などが行われています。

住民からは「ダムで水や砂利を止めると、愛知県下有数の清流が死んでしまう。下流のアサリの産地、六条潟への影響が心配だ」など、環境・漁業への影響を心配する声が出されました。隣の天竜川の佐久間ダムなどから水を融通する協定があることも紹介され、「治水、利水の両面で無駄なダムだ」との声が出されました。

18日は国交省・設楽ダム工事事務所から説明を受け、建設予定地や関連道路を視察。国交省がダム容量の



ダム本体の予定地の方向を指さす田中氏(左)と右へわしの、本村、しもおくの各氏ら17日、愛知・設楽町

うちの6000立方メートル分を「流水の正常な機能の維持のため」としていることについて、本村氏は「ダムで水をせき止めておきながら川に水を流すためになるというのは非常識だ」と批判しました。